働き方やワーク・ライフ・バランスを考えてみよう

「働き方・ワーク・ライフ・バランス」座談会

男女雇用機会均等法が施行して今年で40年となりました。
20代・30代の若者は、現在の働き方や仕事、親世代の働き方などについてどう感じているのでしょうか。
市内在住または勤務の男女６人にお聞きしました。

ゆっパルの由来



この地方の方言で"結ぶ"という意味の「ゆっぱる」と、英語で"仲間・友だち"という意味の「パル」からできています。
『一人一人の思いが結びついて仲間をつくる』という願いが込められています。

十和田市男女共同参画市民情報誌「ゆっパル」編集委員によるコーナーです。

Q１.「働きやすくなった」と感じる変化や逆に「モヤモヤ」を感じたこと、また、性別による役割分担やキャリアについて感じることはありますか？

最近イベントの準備でテントの設営や食材準備の仕事があり、男性はテント、女性は食材準備で自然と分かれてしまいました。漠然と頭の中にあったかもしれないです。料理は好きなので、食材準備もやりたかったなと思いました。

私は女性ですが、力仕事も進んでやっていきたいタイプです。キャリアなどでいうと、私の会社は、代々男性が会社を継いできたのもあり、日本独特の制度がまだ残っていると感じていますが、女性も昇進していく中で職場の雰囲気も良い方向に変わってきていると感じています。

怪我も心配ですから、自然と力作業は男性がやろうとなりますよね。変化の点でいえば、私の職場の男性上司は、仕事を調整して子どもの送り迎えに行っています。

参観日に行くと私も含め、父親が結構来ています。私が小さい頃は母親ばかりでした。

会社でも育休を取得している男性が増えているなと感じています。社会全体で進めているので、男性も取得しやすくなってきているのではないかと思います。

Q２.ワーク・ライフ・バランスについてどう考えていますか？また、自分の親世代のワーク・ライフ・バランスはどう映っていましたか？

残業や繁忙期の業務分担について明確に指示をすることで定時退社できる従業員が増えたと感じる一方、もっと働きたいと思っている従業員が意外に多くいることにも気づきました。より働きたい、より貢献したいと思ってくれている従業員にも対応できる仕組みが必要だなと感じています。全員が公平に働けて、かつ私生活と仕事のバランスが取れるようにしていくためにはどうしていくのがいいか考えています。

私も仕事がものすごく楽しいので、ライフとワークが一緒になっている気がします。それをどう許容して、受け入れていく社会を作るのか日本の課題かもしれません。

私の親は自営で観光業をしていますが、ライフとワークが全く一緒だったと感じています。子どもの頃は「大人になると休みがないんだ」と思うくらいでした。その中でも一緒に過ごす時間を作ってくれていました。私は今は若さもあると思いますが、もう少し働きたい気持ちがあるのでライフとワークを分けず考えています。

私の実家も自営業で建築業をしていますが、父親が忙しい人で仕事、仕事、仕事でした。親を見て、大人になったら休みもちゃんと取りつつ、働きたいと思うようになりましたね。

私の親も理髪店を営んでいて、週１回の休みの中で、一緒に過ごす時間を作ってくれていました。小さい頃から両親を見ていたのでそれが当たり前だと思っていた部分と、大人になり色々な人との出会いや話を聞く中で、働き方も選択できる世の中になってきていると感じています。前職は休みが少ない職場でしたが、今は安定して休みがあり、私は仕事を楽しめていると感じています。

今日からできる小さな一歩

「なんとなくそうなっていた」こと、ありませんか。家事分担や職場の役割、行事への参加…。今すぐ変えられなくても、まずは「気づく」ことからですね。

座談会メンバー



- 星 幸太郎（ほし こうたろう）さん　20代・男性　会社員・建築業
- 大前 陶子（おおまえ とうこ）さん　20代・女性　会社員・観光業
- ノコギリ さん　20代・男性　会社員・建設業
- りんご さん　30代・女性　会社役員・小売業
- 河津 拓郎（かわづ たくろう）さん　30代・男性　会社員・観光業
- マルチーズ さん　20代・女性　公務員

Q３.もしあなたが違う性別だったとしても、今の仕事を選びましたか？

建築業界や設計業界はまだ女性が少ないので同性がいないと不安に感じると思いますが、女性だったとしても好きな仕事なので選びたいです。

選んでいると思います。先祖から続く面白みのある仕事だと思っています。

やりたいことがあるので、性別関係なく私も選んでいると思います。

女性だったとしても楽しめると思うので、今の仕事を選びます。実家を継ぐとかはどうですか？私は次男ですが、親の近くにいようと思い、Ｕターンしてきました。

私は就職で十和田に来たのですが、実家が自営業なこともあり、長男なので将来戻って継いだほうがいいんじゃないかという迷いはあります。

私は両親に背中を押してもらい、違う道を選びました。祖父の代からのお客さんからも色々話を聞く中で、これまで培ってきたものを途絶えさせてよいのかという気持ちもありますが、今は違う形でサポートしていきたいと思っています。

母が美容室を経営しているのですが、女性だったらもしかしたら、美容師の道を選んでいたかもしれないと皆さんの話を聞いていて思いました。

Q４.座談会の感想をお願いします

就職前は昭和の考えが残っているのかなと思っていましたが、徐々に変わってきていると感じました。皆さんの意見が聞ける良い機会となりました。

性別によらず、やりたいことができているのは、これまでの皆さんの理解が進んでいるからだと実感しました。このような環境や社会があることに気づけたいい機会になりました。

尊厳を守るための人権の保障や、男女共同をはじめ誰もが社会に参画できる仕組みが整えられ個々の姿勢の見直しが積み重なり、現在につながっていると思いました。

上の世代の人たちに教えられてきたことや、皆さんの考えをどんどん取り入れて、私の中にもあった古い考えを徐々に変えていこうと思いました。

このような話題を話す機会がなかったので、私の中でのモヤモヤした部分や皆さんが思っていることが聞けて良かったです。

法律もみなさんの感覚でも変わってきていると感じますが、「これからどう変わっていくのか」「変わっていくとしたらどこが変わって行くのか」みんなで考えていけたら、もっと日本全体が良くなると思いました。

編集後記

- 昨今は職場の理解も進み、参加者のワークライフバランスが整いつつある様子がうかがえ、心強く感じました。
- 世代の違う方々の話を聞き、時代は少しずつ良い方へ変わってきていると実感しました。若い世代がより暮らしやすい環境を整えていけるといいなと思います。
- 自分なりの働き方を模索している姿が印象的でした。ライフとワークが一緒という意見が多数でしたが、自分なりのバランスを見つけられる社会が理想ですね。
- 皆さんの話を聞いて公平で互いが納得できる働き方に近づいていると実感しました。とはいえ、まだまだ！私もがんばります。
- 先日、男女平等、格差について、新聞掲載を目にしました。日本は低迷、もちろん私も昭和の殻から脱ぎ出せぬ状態です。
- 育った環境で考え方が培われ、それが現代と擦り合わせてみると、『もしかしたら、選択肢の幅が今はあるのかな？』まだまだ、考え方は進化していきそうです。

編集　十和田市男女共同参画市民情報誌ゆっパル編集委員
岩木節子、木村奈生美、白山八千代、杉浦すずめ、竹ヶ原香織、田中直子
発行　企画調整課市民協働参画係